



発行所
 富山県南米協会
 〒930-0096
 富山市舟橋北町4-19
 電話 076-441-6148
 F A X 076-444-2179
 北陸銀行県庁内支店
 普通預金口座1098740
 郵便振替口座00760-8-5145

No. 148

ノーベル医学生理学賞が本庶佑氏に

本庶氏の本籍は富山市

2018年のノーベル医学生理学賞が本庶佑京都大学特別教授(76歳)と米国テキサス大のジェームス・アリソン教授(70歳)に授与される。

本庶氏は、京都市生まれの宇部市育ち、両親とともに富山県(父は富山市、母は魚津市)の出身。昨年、富山市で講演の際には、「富山市花園町に本籍がある。(富山には)大変愛着を持っている」と話している。本庶氏の祖父は、富山市中老田の専称寺に生まれ、県職員として兼事行政に携わった。その後、父正一氏(山口大医学部教授)の時代に富山を離れた。同寺の前住職本庶邦之さん(82)は、又従兄弟に当たる。母の柳さんは、魚津市本町の医師米多外男氏の次女として生まれた。本庶氏には、母方の叔母大崎郁さん(93)及びいとこで医師の大崎康世さん(71)ら県内各地に多数の親戚縁者がいる。佑氏は子どもの頃には、夏休み等に妹とともに母の実家がある魚津市に来て、叔母の大崎家にも泊り海水浴などで過ごした。康世氏も京大医学部への進学に際し、佑氏に家庭教師をしてもらったという。

受賞の理由

受賞理由は、「免疫反応のブレーキを解除することによるがん治療法の発見」。

本庶氏の研究チームは、1992年、免疫細胞の表面で働くタンパク質「PD1」(programed death cell)を発見し、これが免疫反応を抑制するブレーキ役として働くことを解明した。

がん細胞が自己防御のため、PD1と結合して免疫細胞からの攻撃にブレーキをかけるのを阻止すれば、がんの排除が可能になる。

この原理に基づき、本庶氏らが小野薬品工業(大阪市)と開発した免疫チェックポイント阻害剤が治療薬「オプジーボ」である。

なお、10月1日の記者会見に山極京大総長とともに同席した副学長の湊長博理事(67歳、氷見市出身)は、がん免疫の専門家、本庶氏がPD1の抗体を作る際に共同研究を引き受け、開発した。

本庶氏は、人類の永い間のがんとの闘いで、これまでの①手術、②抗がん剤及び③放射線という3つの治療法に、新たに「免疫療法」という第4の方法に道を開いた。

同時受賞のアリソン教授は、免疫のブレーキ役となる別のタンパク質を独自に発見した。また、本庶氏は、これ以外にもノーベル賞級の成果として「クラススイッチ」と呼ばれる免疫反応で多様な抗体が作られる仕組みも発見している。

県ゆかりのノーベル賞受賞者は4人

富山県ゆかりのノーベル賞受賞者は、大沢野町で少年時代を過ごした利根川進氏(87年、医学生理賞)、富山市出身の田中耕一氏(02年、化学賞)、県内在住の梶田隆章氏(15年、物理学賞)に次いで、4人目となる。奇しくも本庶佑さんの本籍地である花園町も国道41号沿いにあり、ノーベル街道の地位は揺るがない。日本人(米国籍者を含む)の受賞者は、26人(長崎出身の英国籍カズオ・イシグロ氏(文学賞)を含めると27人)目で、うち医学生理学賞は5人となった。



かけはし

がつこう
10月号

とやまけん はけんきょういん なかむらけん たろう
富山県派遣教員 中村健太郎

▶▶▶ 第119回全アリアンサゲートボール大会

大会の回数を聞いて、驚きました。年間4回行われている、全アリアンサゲートボール大会は、数えること119回目ということで、30年の歴史があるそうです。日本では、あまり見かけることのなくなったゲートボールですが、ブラジルでは盛んに行われており、今年は世界大会もブラジルで開催されました。

気温が高い中でしたが、予選リーグのあと決勝トーナメントを戦い、第3アリアンサチームが優勝しました!!!私は、応援だけの予定でしたが、急遽もう1つのチームに参加させていただき、初の大会参加となりました。今大会では、最高齢96歳の方が参加しておられ、年齢を感じさせないプレーを見せていただきました。



ゲートボールは見た目以上に、とても難しいスポーツです。ボールを打つ技術だけではなく、戦術を考えながら、二手先、三手先を読みながらプレーします。私も練習に参加させていただいていますが、全然ついていけません。しかし、一緒にプレーしていると、元気で長生きできる秘訣を教えていただいているような気がしています。

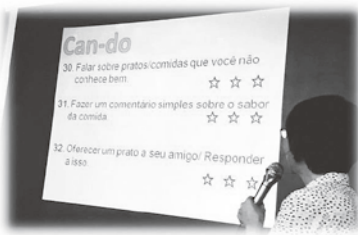


▶▶▶ アリアンサの風景

▼公衆電話です



教師会 日本語教師が集まって研修会



2ヶ月に1度程で、近隣の日本語学校の教師が集まって、研修や行事の打ち合わせ等を行っています。今月は、サンパウロから日本語教育に関わる先生方をお招きして、日本語教育の現状や言語の学び方、授業実践等の研修を行いました。授業の導入の仕方や視聴覚教材の利用等、様々な方法を教えていただき、勉強になりました。

▼講習認定証もいただきました！



編集後記



来月は第3地区(第1・2・3アリアンサ日本語学校、ミランドポリス高岡日本語学校)にて、「低学年お話発表会」を行います。こちらに来て、2つ目の学校行事です。人数が少ないこともありますが、他校との合同行事はとても貴重な体験です。同じように日本語を学ぶ新たな仲間に出会ったり、一緒に活動を成し遂げることで達成感を感じたりと、刺激あるものです。また、教師である

私たちも、刺激を受け合いながら、互いの教師力の向上に努めています。国は変わっても、教師として自分のできることをこれからも考えながら、努めていきたいと、改めて思いました。

こちらは夏目前です。日中は30度を超え、汗をかきながら日々過ごしています。

『暑さに負けない熱さ』で頑張ります!!

在亜県人会の村藤副会長が来訪

10月18日、在アルゼンチン県人会副会長の村藤修さん(63歳)が、県庁を訪れ山崎康至副知事(南米協会会長)と懇談した。

村藤副会長は、首都ブエノスアイレスで日本食品の輸入卸業を営んでいる。我が国は農産品輸出1兆円を目指し、世界各国に戦略的なPR活動を展開していることから、村藤さんはJETRO(日本貿易振興機構)の招きにより、幕張で行われた商談会等のため来日した。

懇談で、村藤副会長は、若い人にアルゼンチンをもっと知ってもらうため、青少年のホームステ

イなど交流の機会を広げたい旨を語り、山崎副知事も、同国からの研修員OBの活躍など、若い人たちに懸け橋になってもらうことが大切だと話した。懇談には、兄の輝男(69歳、元県職員)さんも同席した。



村藤副会長と山崎副知事

みやこしみつひろし だいじんしゅうにん 宮腰光寛氏が大臣就任



9月の自民党総裁選挙で安倍晋三氏が3選され、第4次安倍改造内閣が10月2日(火)発足し、衆議院議員の宮腰光寛氏(67歳、富山2区選出、8期)が一億総活躍兼沖縄北方担当大臣に就任

した。県出身の大臣就任は、06年9月の長勢甚遠氏の法務大臣以来12年ぶり。また、橘慶一郎氏(衆院富山3区)が復興副大臣になり、野上浩太郎官房副長官(参院)は留任した。

宮腰氏は、黒部市石田の出身で、桜井高校から京都大学法学部に進んだ。家業の石材店に入社し、1983(昭和58)年富山県議会議員に当選し、4期連続で務め、96年には副議長に就任した。国政には、98年の衆議院補選で初当選し、現在8期目で、岸田派に属し農林族の主要メンバーとして活躍。

これまで農林水産政務官、内閣府政務官、農林水産副大臣、衆院農林水産委員長、首相補佐官などを歴任し、地元からも大臣就任が期待されていた。

宮腰大臣は、沖縄に関しては、これまでの農林関係をはじめ議員活動の中で、有人離島に全て足を運んでおり、サトウキビの増産プロジェクトや副産物の泡盛の海外輸出を推進してきた。沖縄での人脈も幅広く、現地を知る大臣に期待が大きい。

他方で、北方四島からの引揚者(元居住者)1万7千人のうち、富山県(約1400人)は、北海道に次いで二番目に多い。地元黒部市には元島民が生地周辺をはじめ多数生活し、北海道根室に移住したままの県人も多い。黒部市が北方領土返還運動の一翼を担って活動していることから、宮腰氏は、かねてから北方領土問題をライフワークと位置付けており、元島民の援護や北方領土周辺地域の活性化などの一層の進展が期待される。

なお、宮腰大臣は、①一億総活躍、②沖縄北方のほか、③行政改革、④国家公務員制度、⑤領土問題、⑥消費者・食品安全、⑦少子化対策、⑧海洋政策の8つの担当業務を抱えることになった。

10月5日内閣府で職員らを前にあいさつに立った宮腰大臣は、担務が多岐にわたることに触れ「横串を刺して取り組んでいく」と強調し、組織の連携を密にし、業務に当たる必要性を訴えた。

いちかわ けんじんかいちょう ち じひょうけい 市川ブラジル県人会長が知事表敬



市川利雄ブラジル県人会長は、10月26日午後、県庁に石井知事を訪ね、サンパウロ市にある県人会館の改築修繕に対し、県から費用の一部を助成されたことに感謝しお礼を述べた。既に一部の解体など工事は始まっており、年度内に完成する。なお、午前中には高岡市及び富山市にも同様に助成の謝意を伝えるために両市役所を訪れた。

市川県人会長は、7月にサンパウロ市で開かれた日本祭り(フェスティバル・ド・ジャポン)の実行委員長を務めており、会期中に日本人移住110周年記念式典も行われ、同会場で来賓の秋篠宮家眞子さまの案内役を務めた。また、3日間で21万5千人が参集したことを冊子などで紹介した。

知事室の表敬の席で、市川県人会長は、石井知事、山崎副知事(南米協会会長)、蔵堀総合政策局長らを前に、富山県とサンパウロ州との交流は、相互の教員派遣や留学生・研修員受入れ、奨学金など「富山県が一番友好提携に力を入れている」と現地で高い評価を受けている旨を伝えた。

石井知事は、同県人会が研修員経験者らの参加で活性化していることを喜び、奨学生らを含め将来の両国の架け橋になる人が出てきてくれると有難いと期待を表された。